

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第7号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第7号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
6月	1	21.6	22.4	0.8	27.6	28.6	1.0	16.7	16.7	0.0	21.8	69.0	317	25.9	39.1	151
	2	22.3	22.0	-0.3	27.8	27.5	-0.3	17.8	17.5	-0.3	28.6	8.5	30	23.0	37.1	161
	3	22.8			27.9			18.7			40.9			21.2		
	4	23.3			27.9			19.7			58.6			18.8		
	5	23.9			28.1			20.6			74.3			15.4		
	6	24.6			28.4			21.6			84.4			14.1		

○6月2半月の平均気温は、平年に比べて0.3°Cほど低く推移した。この期間は、まとまった降雨もなく平年に比べて少雨多日照傾向となった。

○九州北部地方は6月11日ごろに梅雨入りしたと報告され、平年より7日遅い梅雨入りとなった。

《福岡管区気象台の1か月天気予報（6月9日発表）（予報期間 6月11日から7月10日まで）

向こう1ヶ月の気温は、平年並か高いですが、期間のはじめは冷たい空気が流れ込みやすいため低いでしょう。

向こう1カ月の降雨量と日照時間は、ほぼ平年並の見込みでしょう。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：6月13日）

項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ	本 年 値	64.0	602	12.4	35.2	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年に比べ低く、茎数は平年並み。 主稈出葉数は平年並み。葉色は平年より淡い。 幼穂長20mm程度 幼穂形成始期 6月3日頃
	平 年 値	66.6	600	12.3	36.8	
	平年比(差)	96	100	+0.1	-1.6	

※ 平年値は、H23～R3年度の平均値 ※耕種概要は稲作情報NO1参照

（管内の生育状況）

○現在、生育ステージは、幼穂形成期～穂孕み期を迎えている。

○生育が旺盛で葉色が濃い圃場では、葉いもち病の病斑（停止型）を確認した。

○強い中干し後、急に湛水状態に移行した圃場において、根痛みによる葉先の黄化を確認している。

（かなり土壌表面が白乾した圃場にて確認している）

3. 今後の管理（極早期コシヒカリ）

（1）水管理

- ・「コシヒカリ」は、幼穂形成期～穂孕期となっています。

情報田は、幼穂長からみた出穂日は6月29日頃と予想される。

- ・幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期であるが、湛水を長く行くと根を傷める場合もあるので、引き続き間断灌水を行う。

ただし、穂孕み期から穂揃期（6月18日頃～7月7日）は浅水管理とする。

また、台風等が接近する場合は、出来るだけ深水管理とする。

(2) 病害虫防除

①斑点米カメムシ

- ・斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を
水稻の出穂15日前（6月中旬）までに終わらせる。

※前年より生育が進んでいるため、早めに畦畔除草を行う。

特に斑点米カメムシは、イネ科雑草を好むことから圃場内に発生しているヒエ等の雑草も併せて行う。

※畦畔を100m歩いて斑点米カメムシが3頭いたら、要注意である。



エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処になっている

4. 今後の管理（普通期水稻）

《共通》

- 今年の麦類は平年より収量が多く、麦わらの量も多い。

麦わらすき込みを行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、

移植前日までに窒素成分で0.5g～1g/箱の弁当肥を施用する。

移植後は、ガス抜きによる水管理が重要である。

(1) 「夢しずく」

- ・「夢しずく」は、早いところで6月10日（平坦上部）から始まっている。
今後は、移植時期に応じた水管理を徹底する。また、除草剤は、薬剤の使用基準を守り、処理後7日経過したら浅水管理に移行する。
- ・麦わらすき込みを行った圃場で、「ガスの発生が著しい場合」は、除草剤処理から7日経過したら「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。



手を田んぼに入れると、気泡（ガス）が激しく発生する
⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の葉先に褐色の
斑点が発生する。

(2) 「さがびより」

- ・露棚ができるような、うっぺいした状態の苗では、いもち病斑を確認している。
今後の天候次第では、他の品種でも「いもち病」の発生が懸念されるので、発生が甚だしい場合は、

薬剤防除を行う。

- ・「さがびより」は茎数が増えやすい品種であることから、下記のとおり①適正な栽植密度②植え付け本数を守るとともに、植え付け深度（3cm程度）の適正化に努める。

- ①栽植密度 50～60株/坪（15～18株/m²）
- ②植え付け本数 3～4本/株

(3) 「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」

- ・「ヒノヒカリ」は6月20日以降、「ヒヨクモチ」は6月25日以降に移植する。

令和4年産 水稲作付期間気象図
アメダス観測値(白石)

